

善波先生の絵「陽春の小田原城」を眺めて 2021年6月25日 6組 瀬戸 章嗣

2組の石井敬士さんが情報提供を呼びかけ、WEB11に掲載された首記の絵ですが、自分は、絵について全くの素人で、又、この絵についても記憶があるわけではありませんが、何かなつかしさを感ず、心地よい思いがしましたので、感想を書いてみます。そして、

11期の美術部員に関して、知るところを報告します。

なつかしさが何処から来たのかと思うと、油絵の良さもあるかもしれないと思うのですが、八幡山から見た景色で、いかにも、<山と海と城に恵まれた 明るい小田原>を、象徴的に思い起させるからではないかと思った次第です。

それで思い出して、手元の本棚にある、「1959年3月卒業記念」とあるアルバムを出し、最初のページの校歌と下にある、善波先生の作と聞いた<プールと図書館、そして遠望の箱根の峰と白雲>の絵を眺めました。この絵は、校舎の南側の風景で、海に向かっての上記の絵と二つ合わせて眺めると、一層懐かしさが湧きましたので、

<大天地にそそり立つ 箱根の山を背向ひにて 覇者の古城の跡に立つ・・・>
<底つ岩根をゆるがせて とうとうとしてよせ返る 相模の海の荒波に・・・>
と一番、二番を口遊むことをしたりしました。

この<絵のある校歌のページ>は、2017年11月にあった<11期生の喜寿を祝う会>で、校歌斉唱用に、参加者にコピーが配られたのですが、当日、私の近くにいた、6組の大倉富美雄さんが、<この絵は善波先生の絵だ>と教えてくれたものです。

さて、11期の美術部員についてですが、上記卒業アルバムには、各部活動メンバーの写真があったと思ってみたところ、美術部は4人で並んだ写真があり、名前はないですが、同クラスで顔見知りの、6組の大倉富美男、6組の井上幸三、4組の川崎虔右の諸氏がおり、もう一人は、在学中の知り合いではありませんが、アルバムのクラス別写真との見比べなどから、2組の茂登山東一郎氏だろうと思います。

このうち、大倉、井上両氏のご健在のはずと承知しており、井上さんは、昨年同期の榮さんが発行された「俳句・川柳・短歌、初心者塾」実践編に、「俳句入り絵手紙」で参加されており、大倉さんはWEB11リンクでブログを書いておられるので、最近も読ませていただき、共感したところです。

以上。